

市町村指定文化財取材票 <表>

取材日	2023年	7月	17日	(記入者) 神野一美	
取材参加者	秋山	大谷	河添	神野	仲
	灰藤	東辻			
取材対象先	葛城市：當麻寺の木造金剛力士像				

所在地	葛城市當麻1263				
所有者(取材 対応者)名	當麻寺(葛城市歴史博物館 課長補佐 ***氏) (個人情報守秘)			連絡先：0745-62-1661	
	PCアドレス				
取材申込	申込先・行政名など：葛城市歴史博物館				
市町村指定 文化財	彫刻	2 軀	木造金剛力士像 1998(平成10)年11月12日指定		
	建造物	棟			
文化財指定理 由	當麻寺の玄関口で参拝者をお迎えする、3mを超える堂々とした仁王像。制作者もはっきりしている文化財で、市(指定当時は当麻町)指定文化財となった。				

文化財の状況

	設備・対策・点検・通知方法など	記入者の感想
防火対策	仁王門の近くに消火器が置かれている。	仁王門の下に金剛力士像は安置されている。国宝・重文が数多くある寺院のため、防火対策は十分行われており、問題はないと思われる。
	被害の有無、対策など	記入者の感想
獣害対策	約30年前からニホンミツバチが金剛力士像の頭部に巣を作っていた。阿形像の口から侵入したことが判明。「なら歴史芸術文化村」へ移動させ修復中。吽形像に同様の被害は無し。	巣食っていたのは絶滅危惧種のニホンミツバチで、根絶のために殺生もできないというご苦心があったようである。
保存～継承 へ 苦勞と 今後の課題 と対策	金剛力士像のうち阿形像は、現在「なら歴史芸術文化村」でミツバチによる汚損と経年劣化による修復を行っている。令和4年・5年が阿形像、その後令和6年・7年で経年劣化の目立つ吽形像の修復が行われる予定。この修復には、葛城市が「企業版ふるさと納税」から「當麻寺仁王像修復補助プロジェクト」に補助金を交付して支援している。阿形像の口は、具体策は未定ではあるが、何らかの方法でハチの侵入を防ぐ方法を講じて仁王門に戻されるという。2軀が揃うのは令和7年以降の予定。	

取材を終えて感じた文化財保護状況と今後の課題(修復、維持、管理、環境など)

仏像の中にミツバチが巣をつくるという事例は、担当学芸員もこれまで聞いたことがないとのこと。参拝者はハチに刺されることを懸念し、養蜂家はミツバチの保護を願い、所有者側は被害のある仏像を早く救いたいという三つ巴の立場が存在し、修復作業の開始までにかかなりの時間を要したそうである。このニホンミツバチは、仁王像の中にあつた巣や蜂蜜・蜜蝋などと共に近くの森へ帰したと聞く。希少種のニホンミツバチが住む自然が周囲に存在している証でもある。

市町村指定取材票《裏》

取材日	2023年	7月	17日	(記入者) 神野一美	
取材参加者	秋山	大谷	河添	神野	仲
	灰藤	東辻			
取材対象先	葛城市：當麻寺の木造金剛力士像				

<写真撮影許可済み>

文化財指定名 木造金剛力士像

<p>金剛力士像吽形</p>	<p>金剛力士像阿形は不在</p>
	
<p>仁王門入口</p>	<p>吽形の金剛力士像背面（経年劣化が目立つ）</p>
	
<p>文化財の由緒などを記入</p>	<p>所有社寺や地域（廃寺等）の歴史や特徴を記入</p>
<p>大阪の仏師 田中主水家に伝わる仏師系図によると、阿形像は高福作、吽形像は保久作と記されている。金剛力士像はヒノキ材の寄木造り、眼には玉眼がはめられている。阿形像は339.0cm、顔をわずかに右側に向け、瞋目、開口、上歯をあらわす。吽形像は339.8cm、顔をわずかに左に向け瞋目、閉口。</p>	<p>聖徳太子の異母弟の麻呂古が発願し、孫の当麻国見が河内の国にあった万法蔵院を二上山の東側へ遷した。この地は役行者から寄進されていたが、687年によりやく完成し、金堂に本尊として弥勒菩薩を祀り當麻寺が始まる。当初は南面していた寺であったが、その後、東を正面とする寺へと変化して、今も仁王門（県指定文化財）には阿吽の金剛力士像が東を向いてお守りしている。</p>